

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501511
法人名	(株)えひめメディコープ
事業所名	グループホームとらや
所在地	愛媛県新居浜市若水町2-7-4
自己評価作成日	H23年7月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「笑顔のある暮らし」の理念の下、いつも笑いの耐えない家庭作りを目指してスタッフ一同頑張っています。しかし、年々重症化し、毎年行っていた1泊旅行も今回からは、日帰り旅行となりました。その中で一昨年より取り組みだした地域の愛護との餅つき大会は、地域交流・活性化も含め、継続していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所では「利用者が地域で過しやすい環境を作るためには、地域の方と顔見知りになることが大切」と考え、管理者は、自治会役員になって、利用者とともに積極的に地域活動に参加されている。自治会行事の「お水取り」には、3名の利用者と参加して、婦人会の方達が作ってくださる七草がゆをいただいた。さらに、出かけられなかった利用者の分も持ち帰れるよう用意してくださった。校区の運動会では、利用者が玉入れに参加して、自治会で用意してくださったお弁当をいただいた。文化祭では、利用者と職員で作った干支のうさぎの貼り絵の展示物を公民館に見に行かれた。展示会場が2階であったため、利用者が上がりにくい現状もあって、今後は、1階に展示いただけるようお願いされたようだ。事業所で行う年末の餅つき大会への参加者は、昨年度より増えており、利用者もお餅を丸める等一緒に活動された。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームとらや

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 高次 真理

評価完了日

2011 年 7 月 9 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) H17年スタッフ皆で立ち上げ、毎年確認を行っている。また、朝の申し送り時に復唱し、内容を毎日認識し、その日の業務につくようにしている。	
			(外部評価) H19年に理念を見直されて、理念の一つに「地域及び地域施設へ情報発信、情報交換を行い交流を図る」と掲げておられる。毎月行っておられる部会では、理念に沿い職員全員で話し合っ「月間目標」を決めておられる。今月は「体調管理に気を付ける」と決めて、職員は、利用者の水分補給等に心がけておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の役員会に役員(組長)として参加し、組のお世話役をしていると同時に、行事へは出来る限り参加している。また、毎日の買い物等、顔見知りとなり、地域からの声かけもあり。	
			(外部評価) 事業所では「利用者が地域で過しやすい環境を作るためには、地域の方と顔見知りになることが大切」と考え、管理者は、自治会役員になって、利用者とともに積極的に地域活動に参加されている。自治会行事の「お水取り」には、3名の利用者と参加して、婦人会の方達で作ってくださる七草がゆをいただいた。さらに、出かけられなかった利用者の分も持ち帰れるよう用意してくださった。校区の運動会では、利用者が玉入れに参加して、自治会で用意して下さったお弁当をいただいた。文化祭では、利用者で職員で作った干支のうさぎの貼り絵の展示物を公民館に見に行かれた。展示会場が2階であったため、利用者が上がりにくい現状もあって、今後は、1階に展示いただけるようお願いされたようだ。事業所で行う年末の餅つき大会への参加者は、昨年度より増えており、利用者もお餅を丸める等一緒に活動された。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々向け 活かしている	(自己評価) 地域での声かけに対し、答えたり、地域での介護教室や運営推進会議において、話をしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2回に1回、他施設訪問を行ったりし、皆で参考になるものはないか、また、地域での意見、包括からの市からの意見を参考にとらや運営を進めている。</p> <p>(外部評価) 会議には、今年度、前年度の自治会長や民生委員の方、老人会長、家族会で決められたご家族の代表者が参加されている。会議では、行事・インシデント、アクシデント等の報告や他グループホームを見学して意見交換されている。運営推進会議の議事録は、ご家族への書類とともにすべてのご家族に送付されている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進委員として毎回包括より担当者に参加してもらったり、何かあれば、介護福祉課担当者に相談するようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、医師会からの依頼を受けて、傾聴ボランティアや一般の方に向けて「認知症介護について」講習をされた。2ヶ月に1回、介護相談員を受け入れておられ、地域包括支援センターから「相談員を受け入れている事業所として、みなに話してもらいたい」との依頼があり、受ける予定になっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎年研修会に参加したり、学習会をしたりして再認識し、日ごろの介護につなげている。</p> <p>(外部評価) 玄関にはセンサーが設置されており、出入り時には音が鳴るようになっている。又、居間から玄関まで離れていることもあって、ご家族からの意見もあり、玄関にはモニターが設置されている。他利用者の居室に入る方への苦情もあり、出入り時にはセンサーで分かるようになっていた。現在、センサーマットや持ち運び式センサー等、複数のセンサーが設置されている。管理者は「早めの対応ができる反面、音が散乱していたり、職員がセンサーに頼りすぎている部分もある」と感じておられる。事業所では今後、身体拘束についての内部研修を行う予定となっている。</p>	<p>調査訪問時にもセンサー等の音が気になることもあり、利用者の中には「玄関に行ったら音が鳴るから出られんよ」と言われる方もいるようだ。事業所は「介護の質向上を追求していく」ことを理念にも掲げておられ、利用者の行動をケアでカバーできるような取り組みに向けても、話し合いをすすめていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎年研修会に参加したり、施設内学習会をしたりして再認識をし、日頃の介護に繋げている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会があれば参加するようにし、対象入居者様がいれば家族等話し合いを持つようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時、契約変更時等は家族と十分説明を行い、契約を結ぶようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を置き、また、年2回家族会を持ち、意見・要望を聞くようにしている。 (外部評価) 年2回開催する家族会では、運営推進会議に参加して下さっているご家族の代表者の方が、会議内容について報告して下さっている。事業所からインシデント、アクシデントの内容を報告した際には、「利用者が重度化して来ているので職員もたいへんでしょう。私達にできることは協力します」と、言葉をいただいた。文化祭に展示する貼り絵作りについて職員が「利用者が色を選んで貼ることが難しい」と悩んでいたところ、ご家族から「下絵に薄く色を塗っておき、それに合わせた色紙を貼ってもらうようにすれば、利用者も貼りやすいのではないかとアイデアをいただき実行してみられ、利用者が作業しやすくなったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日での気づきは、気づきノートに記入してもらうようにし、月1回部会において、業務内容を検討するようにしている。また、年2回個人個人において面接を行い、意見要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 利用者の高齢化に伴い、以前は問題なかった階段の上がり降りについて、職員・利用者ともに「不安、怖い」と感じるようになり、現在、リフトを付けるか検討中であった。足元の不安定な方や階段を上がり降りする方は、履き物についても、安全に配慮したものに交換されていた。職員からの提案で、「清潔を考えて、毎朝職員、利用者全員のスリッパの裏を拭くようにされている。」	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 取締役会に、前月の経営、運営状況を提出し、月1回取締役会に参加し、意見を出し合い、職場作りに勤めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 面接により、各人が研修に参加しやすい方法を見極め、その人にあった研修を進めるようにしている。また、会社として、研修参加費や交通費の助成が認められている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県のGH協会に加盟し、研修会に参加することにより交流を図ったり、相互評価には必ず、複数参加するように勤めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、本人・家族と面談を行い、アセスメントシートを仕上げると同時に、本人の気持ちを理解するように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、本人・家族と面談を行い、アセスメントシートを仕上げると同時に、家族の気持ちを理解するように心がけている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居された時点では、介護計画を小まめに変更し、その時々にあった介護が出来るように心がけている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の掃除、洗濯物干し、たたみ、買い物等ともに協力できるように心がけている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 診察は出来るだけ家族にしてもらったり、イベントなどにはこれの方には出来る限り来ていただいて面会を多く持つようにしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前よりふるさと訪問を検討していたが、体制の問題により実施に踏み切れていない。しかし、家族との協力で、外出できる方は外出をお願いしたり、今後はスタッフの協力も含め、昔の写真等利用し、とらや班会などで、皆で回想等しようと話し合っている。	
			(外部評価) 以前住んでいた地域や幼い頃過ごしたところの話をされる利用者と、その場所を訪ねたこともあるが、以前と様子が変わっていることに混乱されたこともあり、その頃の写真を見ながら懐かしむ等、個々に応じた対応が必要と感じておられた。又、以前住んでいたご自宅近所の方のことを心配される利用者には、ご家族と一緒に会いに行かれたり、又、その方が会いに来てくださることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 絶えず一人ひとりに気をつけながら、声かけし、よい関係づくりが持てるように援助している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了家族に対して、機関紙や年賀状等を送るようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 3ヶ月に1回はアセスメントシートをスタッフ皆で出し合い、介護計画に生かしている。また、月1回のカンファレンスで出来る限り、本人のペースに合わせるように勤めている。(起床・就寝時間・食事時間等) (外部評価) センター方式をもとにしたアセスメントシートを、事業所独自で作成されており、入居時、ご家族に協力を得て、利用者ご本人のことについて「会いたい人」「して欲しい、して欲しくないこと」「ターミナルをどう過したいか」等について記入してもらっている。	日常生活動作について、アセスメントに取り組んでおられるが、今後は、利用者個々の思いや意向についても探っていくようなアセスメントにも取り組み、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを続けられるような支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時アセスメントシートを家族と共に埋め、活かしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎月のカンファレンスにて、それぞれの入居者様の様子を把握し、介護の統一を図るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月のケアカンファにて、それぞれの入居者様の様子を把握し、利用者様にあったケアができていないか等介護の統一を図るようにしている。また、毎月精神科カンファレンスにより、主治医と最近の状況等検討が出来る様にしている。</p> <p>(外部評価) 利用者個々の担当職員が中心となり、他の職員とも話し合いアセスメントシートをもとにして、年に1回、介護計画を見直しておられる。月1回、職員全員が参加する「介護計画検討会議」では、モニタリングを行っておられ、ともにすべての職員で「ケアの統一」を図っておられる。</p>	<p>事業所では、利用者一人ひとりの現状に即した支援ができるように、介護計画の見直し時期を3カ月～6か月に改善していくことを考えておられた。又、介護計画作成時には、ご家族にも参加していただき、ご本人のケアや生活への要望もお聞きしたいと考えておられる。今後さらに、利用者主体の支援をすすめていくためにも、アセスメントしたことを介護計画に十分採り入れ、細やかな支援で利用者の生活を支えていかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録にできるだけ記入しているが、記録内容等が不十分な所があるため、今後学習していかないといけない。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来る限りは本人、家族の希望を取り入れるようには努力している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域にあるスーパーへ、ほぼ毎日外出している。また、参加できる地域行事へも参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			契約のときに、かかりつけ医を聞き、何かあればできるだけかかりつけ医での対応に心がけている。	
			(外部評価)	
			月に1回の定期受診は、ご家族が付き添っておられ、かかりつけ医が往診に来てくれることもある。調査訪問時には、体調を崩した利用者の診察に協力医が来られていた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			一般状態に係らず、皮膚の状態等少しでも変化があれば、看護師に情報を集中するようにしている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			必ず病棟との連携にて病状把握に務め、利用者様が、安心して治療ができ、早期の退院が出来る様に努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			ターミナルについては、契約時に家族・本人への説明を行っているが、状況に応じてその都度相談を行っている。	
			(外部評価)	
			入居時に終末期のあり方について事業所で支援できることを説明して、希望を聞くようにされている。今年度の家族会で最期のことについて希望を聞き取った際には、2名のご家族から「終末期は自宅に連れて帰りたい」との希望があったようだ。終末期のあり方については、利用者やご家族の希望に沿った支援ができるよう、事業所の体制作りにも取り組んでいかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回の学習により振り返りはしているが、身についたとはいえない。必ず、管理者(看護師)に連絡をし、支持を仰ぎ、隣接の病院と連携をもって実施している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的(年3回)な避難訓練(に運営推進会議のメンバーも参加し、実施しているが、すべて身についたとはいえない。毎日の朝礼においてその日のメンバーの災害時における行動責任を復唱するようにしている。	
			(外部評価) 昨年度、スプリンクラーや自動通報装置を設置された。避難訓練は年間で夜間想定1回、日中想定で2回実施されており、内2回(夜間1回、日中1回)は、消防署立ち合いのもと訓練を行っておられる。災害時に備えて、毎朝の朝礼時には「A勤:避難誘導、B勤:消火応援(隣接施設の火災時)初期消火、C勤:通報及び2階利用者の避難誘導」と職員個々が責任を持って行動できるように、復唱して確認されている。避難訓練には、近所の方や運営推進会議のメンバーも参加されている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の人格を尊重しながら声かけをしているが、本人とのなじみの関係での声かけとなっていることもあり。	
			(外部評価) 職員は、トイレ介助の際には、必ず戸を閉めるように気を付けておられる。又、言葉を発することが難しい利用者にも、職員が介助等をする前には必ず声をかけてから、かかわるようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活における色々な事は必ず本人さんに聞くように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	出来るだけ、本人の過ごしやすいような流れで対応している が、こちらの時間の流れになっているようにも思われる。
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価)	外出時には、本人と一緒に洋服を選んだり、顔剃りしたり、 カットやパーマをかけたい希望があれば、家族とも相談をし、 お出かけするようにしている。
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	その方の能力に応じた方法で一緒に調理できることは手 伝ってもらっている。また、調理を工夫し、おいしく、楽しく食 べてもらえるようにしている。
			(外部評価)	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	水分量や、食事の摂取量が少ない方は、チェック表に記入 するようにしている。
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	毎食後とは行かないが、体制の取れる昼は必ず一人ひとり 口腔ケアができるようスタッフがつき、はじめは自分で、でき ないところをスタッフが補うように援助している。(口腔ケア チェック表に毎日チェックしている)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その人の生活リズムにあわせた誘導を行い、また、トイレに入ったときを見計らってパット交換や、上げ下ろしの介助をしたり、できるだけ自分でトイレ排泄ができるような援助を心がけている。 (外部評価) 尿取りパットをご自分で交換できる利用者には、ご自分で交換できるようにトイレ内に尿取りパットを用意されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表で排便をチェックし、その人の体調に合わせた食事、捕食、担当医と相談し、定期的な下剤により排便をコントロールしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴チェック表を元に、毎日必要な方から声をかけ、入浴してもらっている。時間帯は体制上午後からのみとなっている。 (外部評価) 現在は、入浴に気がすすまないような利用者が多いようだが、職員は時間や様子をみながら声をかける等して支援されている。浴槽の中に滑り止めマットを敷いておられたり、浴槽のふちに板を乗せて利用者が、できるだけ自分の力で浴槽に入り、温まることができるように工夫されている。朝、入浴することを好む利用者に応じたり、又、温泉がお好きな方が多く、温泉や足湯に出かけることもよくある。事業所の職員が全員女性であり、男性利用者が温泉で楽しむことが難しいと考えておられたが、他施設の方から「家族風呂はどうか」と提案をいただき、出かけてみることを検討されていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人の体調、生活習慣を把握し、その人にあった休息を援助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のカルテに薬剤情報を閉じつけ、いつでも誰が見てもわかるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) アセスメントシートをもとに、本人の得意な事、好きな事を伸ばせるように、また楽しめるように皆で智恵を出し合い援助している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望を聞きながら、月1回は出来るだけ外出やイベント行事を計画している。ボランティア、家族の協力を得ながら、年1回、砥部の動物園や東予国民休暇村へ日帰り旅行に行っている。	
			(外部評価) 事業所では「ご自分でご自分の靴を選び、ご自分で履こうとする動作を大切に支援したい」と考えておられ、下駄箱の分かりやすい位置に靴を置くようにされている。毎年、恒例となっている東予国民休暇村への日帰り旅行も続けておられ、又、山開きに合わせて、毎年石鎚神社に参拝に出かけておられる。帰りに、回転寿司で食事することを利用者は楽しみにされているようだ。外出や地域行事に出かける時には、ご家族やボランティアにも声をかけて一緒に楽しんだり、協力していただいている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) こずかいは、施設預かりと、ある程度理解できる人、希望の人には本人持ちこずかいを持たしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は子機を使用し、いつでも対応できるようにしている。手紙、はがきも本人希望があれば援助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家庭の食堂、のような雰囲気を出すように、テレビ以外に心地よい音楽や、その日の気分によって演歌やクラシックを流すようにしている。各空間の壁には、季節の花等を飾るように心がけている。</p> <p>(外部評価) 旅館を改修した事業所で、調度品等もその時代のものを大切に使用しておられ、旅館の趣きのある雰囲気をそのまま残しておられる。テラスには、ソファがあり、雑誌や新聞を置いておられ、金魚を飼っておられたり、大きな日めくりカレンダーや温度計も設置されていた。調査訪問時、利用者は、ソファでうたた寝されたり、洗濯物をたたんだり、又、テラスの風鈴の音が聞こえると、職員は利用者に「風鈴のいい音がしてますね」と、話しかけられ、利用者は「ほうじゃね」と音色を楽しんでおられた。居間からは畑が見え、利用者、職員は季節ごとに野菜や花の成長を楽しみに眺めておられる。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ウッドデッキに使い古したソファを置き、好きなときに座れるようにしている。また、一緒に洗濯物を干したりたたんだりしている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 出来る限り、本人の使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 入居時に、ご自宅で使用していたものをできるだけ持って来てもらえるようご家族にお願いしておられ、ご自宅で使用されていたベッドやタンス等を持ち込まれている。夏場は、風が通るように居室の入口を開けてのれんをかけておられる。居室の電気のみも長くして、ご自分で使いやすくされていた。洗顔後に自室で鏡を見ながらクリームを付けておられる利用者の様子がみられ、鏡は、車椅子に座った高さから見やすい位置に置かれていた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) できるだけ、状況に応じ、見守りにて安全を確保しながら、行動をしてもらっている。また、必要に応じ、手すりを設置している。</p>	